

第 80 回 原子力安全専門委員会定例会（議事概要）

日 時：令和 6 年 10 月 11 日（金） 10:00～12:00

場 所：福井県庁 10 階 防災センター + Web

出席委員：

（現地） 鞍谷委員長、片岡委員、西本委員、藤野委員

（Web） 大堀委員、黒崎委員、望月委員、山本(章)委員、山本(雅)委員、
吉橋委員

議 題：

（１）原子力発電所周辺の環境放射能調査について

- ・令和 6 年度 第 1 四半期（４月～６月）報告
- ・令和 5 年度 報告

（２）原子力発電所の運転・建設および廃止措置状況

- ・令和 6 年 6 月～8 月分報告

概 要：

- 原子力発電所周辺の環境放射能調査の結果、発電所の運転および廃止措置状況について、事務局より説明
- 資料については、次回の原子力環境安全管理協議会の場で配布予定

（原子力発電所周辺の環境放射能調査）

令和 6 年度 第 1 四半期

- ・県内発電所からの放射性物質の放出に起因する線量上昇は観測されなかった。
- ・浮遊じん放射能の連続測定の結果、いずれも天然放射能のレベルであった。
- ・一部の試料から過去の核実験フォールアウトが主要因と考えられるセシウム 137 が検出されたが、環境安全上問題となるレベルに比べ、はるかに低い濃度であった。

令和 5 年度 報告

- ・周辺住民等の線量評価の結果、外部被ばく、内部被ばくとも県内発電所に起因する線量影響は無視できる程度であった。
- ・変動傾向および蓄積状況の評価の結果、浮遊じん放射能の連続測定については、県内発電所に起因する変更は観測されなかった。環境試料の一部から検出されたセシウム 137 等の人工放射性核種は過去実績と同程度、通常の放射性廃棄物管理放出に伴うトリチウムについても過去実績と同程度の濃度で検出された。

（発電所の運転・建設および廃止措置状況）令和 6 年 6 月～10 月

- ・今期間の運転状況は、計画外の原子炉停止や出力抑制はなかった。現在、敦賀 2 号機を除く県内発電所 7 基※が運転している。

- ・当該期間において、安全協定に基づき報告された異常事象は無いが、昨日(10月10日)発表した、「美浜3号機の原子炉手動停止について(1次系冷却水クーラ海水系統戻り母管の減肉)」は安全協定に基づく異常事象に該当することになる。

※ 美浜発電所3号機、大飯発電所3、4号機、高浜発電所1～4号機

(主な質疑)

- Q. 環境放射能の測定結果について、本県に放射性物質が濃縮していないことを示す比較対象として、日本の他地域でのデータを出していただくことは可能か。
- A. 環境放射能水準調査の結果より、福井県内のデータと差異は無いことを確認している。参考として提示することは可能。別途取りまとめるように考えてみたい。
- Q. 美浜3号機のトラブルについて、当初の12mmの厚さから局所的に0mmになるまで検査等では検出されなかったということか。
- A. 定期検査において、定点における配管の天、地、左右の4点の外面からの減肉測定を実施しているが、今回の箇所は測定点からズレた箇所であり、発見できなかったと聞いている。詳細な原因調査結果を受け次第、別途報告する。

以 上